

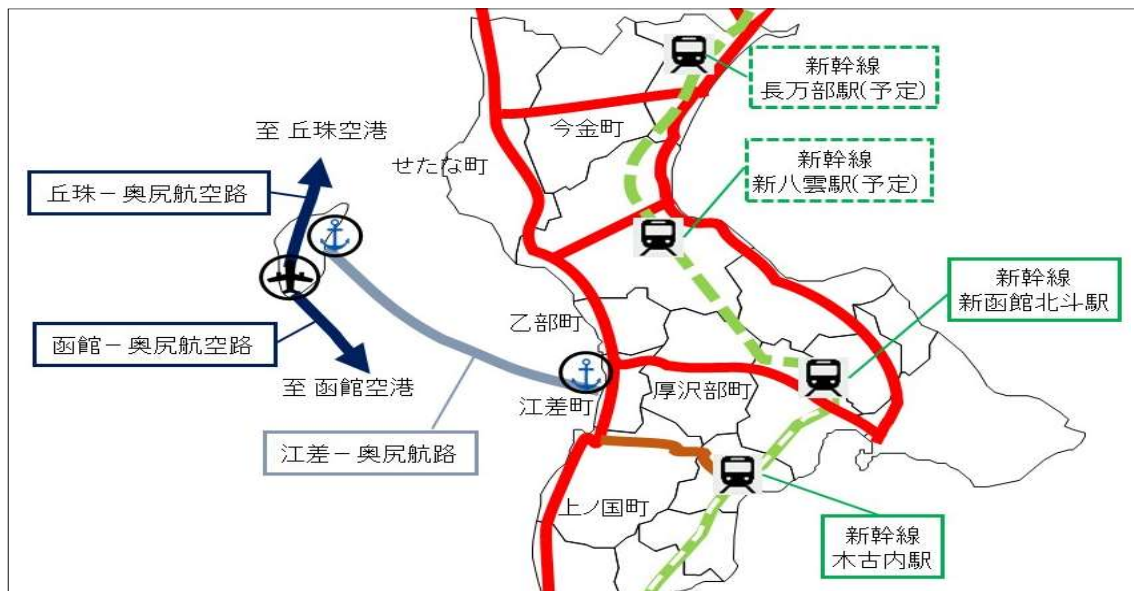
○ 公共交通の現状

1 公共交通の現状

(1) 全体概況

道南地域の交通の結節点を繋ぐ形で、路線バス・フェリー・航空機が運行されており、地域住民の日常生活と観光客の周遊に不可欠となっている。

公共交通の概況



<路線バス(都市間バス、快速バス)>

令和4年1月現在

運行事業者名	路線名	運行本数(上下計)	備考
函館バス(株)	快速瀬棚号 (函館バスセンター上三本杉)	21本	快速バス

<路線バス(上記以外)>

運行事業者名	運行エリア	備考
函館バス(株)	道南全域(函館市、北斗市、松前町、福島町、知内町、木古内町、七飯町、鹿部町、森町、八雲町、長万部町)	
(有)東ハイヤー	今金町(5系統)、せたな町(3系統)	

<航路>

運航事業者名	路線名	運航本数(上下計)	備考
ハートランドフェリー(株)	奥尻-江差	4本	9月~翌年5月(ゴールデンウィークを除く)は2本運航
	奥尻-瀬棚	-	休止中

<航空>

運航事業者名	路線名	運航本数(上下計)	備考
(株)北海道エアシステム 【HAC】	函館-丘珠	2本	
	奥尻-函館	2本	
	奥尻-札幌(丘珠)	2本	季節運航

(2) 路線バス (広域路線)

ア 路線の概要

○下記の4路線を函館バス株式が運行している。

- 【1】瀬棚線 【2】函館江差線 【3】檜山海岸線② 【4】江差木古内線

広域路線図



○全ての路線が、渡島地方と結ばれた長大な路線であるが、人口減少や自家用車の普及等により利用者が減少していることや、長大路線であるが故に路線内で「多客区間」と「閑散区間」が存在すること等により、採算面で課題が生じており、今後、補助事業の対象要件を満たすための輸送量の維持についても懸念されているところ。

○地域住民等の足を確保するため、地域内フィーダー系統等が広域路線を補完しながら運行している。

○なお、過去2年間で次の2路線が、利用者の減少により路線維持が困難となり、廃止となっている。

- 【R2.10 廃止】檜山海岸線① 【R3.10 廃止】江差八雲線

用語解説

多客区間：路線バスの運行区間の中で、日常生活の移動手段としての利用や異なる公共交通への乗換のために利用する人の多い区間のこと。

閑散区間：路線バスの運行区間の中で、沿線に住む地域住民が少なく、観光利用も少ないが、わずかな需要を満たすために存続している乗客が比較的少ない区間のこと。

地域内フィーダー系統：地域間幹線系統と接続し、支線の役割をもっている系統のこと。

広域路線の概要（令和3年度実績）

番号	補助区分	路線名	起 点	経由地	終 点	キロ程
		輸送量、運行本数、多客区間・閑散区間				
		路線の特徴				
【1】	地域間 幹 線 系 統	瀬棚線 (国鉄廃止代替)	上三本杉	今金	長万部ターミナル	71.0
		<p>【平均乗車密度】 3.5 人</p> <p>【運行本数】 7 往復/日（檜山北高校通学生のために一部区間で平日 3.5 往復追加）</p> <p>【多客区間】 瀬棚市街－今金間</p> <p>【閑散区間】 ①上三本杉－瀬棚市街、②今金小学校－長万部ターミナル</p> <p>【路線の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和 62 年の旧国鉄瀬棚線の廃止に伴い、バス転換した路線である。 ・檜山北部地域と、JR 長万部駅を結ぶ、唯一の公共交通路線で、生活や出張などのビジネス、観光に利用されている。 ・今金町やせたな町から檜山北高校への通学に利用されている唯一の公共交通路線である。 ・今金町、せたな町、長万部町の各町内の生活上の移動（買い物や病院等）にも利用されている。 ・令和 12 年度の北海道新幹線の札幌開業時に設置される長万部町の新駅と接続する。 				
【2】		函館江差線	函館バスセンター	東港・厚沢部	江差ターミナル	85.3
<p>【平均乗車密度】 5.2 人</p> <p>【運行本数】 5 往復/日</p> <p>【多客区間】 ①函館駅前－新函館北斗駅間、②江差病院－南が丘団地間</p> <p>【閑散区間】 ①新函館北斗駅－厚沢部間、②南が丘団地－江差ターミナル間</p> <p>【路線の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・檜山南部地域と、中核市で医療機関や商業施設が集積している函館市や新幹線駅がある北斗市とを結ぶ、唯一の公共交通路線で、生活や出張などのビジネス、観光に利用されている。 ・江差町や厚沢部町から江差高校等の教育機関への通学に利用されている。 ・江差町、厚沢部町の各町内の生活上の移動（買い物や病院等）にも利用されている。 ・江差町では、檜山海岸線②や江差木古内線の 2 つの広域路線と接続する。 ・江差町では、奥尻－江差航路にも接続する。 						

番号	補助区分	路線名	起点	経由地	終点	里程
		輸送量、運行本数、多客区間・閑散区間				
		路線の特徴				
【3】	地域間幹線系統	檜山海岸線②	江差ターミナル	陣屋団地	熊石	56.7
		【平均乗車密度】 3.9 人 【運行本数】 5 往復/日（乙部町の高校生が江差高校のために高校経由を平日1 往復追加） 【多客区間】 南が丘団地－乙部十字街間 【閑散区間】 江差ターミナル－南が丘団地間				
		【路線の特徴】 ・乙部町、八雲町熊石と、医療機関や商業施設が集積している江差町（伏木戸町・柳崎町）を結ぶ、唯一の公共交通路線で、生活や出張などのビジネス、観光に利用されている。 ・乙部町、八雲町熊石から江差高校等の教育機関への通学に利用されている。 ・江差町、乙部町、八雲町熊石の各町内の生活上の移動（買い物や病院等）にも利用されている。 ・江差町では、広域路線の函館江差線と、八雲町熊石では、「檜山海岸線予約バス」や「熊石・八雲間予約バス」と接続する。				
地域間幹線系統 合計						213.0
【4】	広域生活交通路線	江差木古内線 (JR 廃止代替)	木古内駅前	湯ノ岱	江差病院・江差高校	57.6
		【平均乗車密度】 1.4 人 【運行本数】 6 往復/日 【多客区間】 大留－江差病院・江差高校間 【閑散区間】 湯ノ岱－木古内駅前				
		【路線の特徴】 ・平成 26 年の JR 江差線の廃止に伴い、バス転換した路線である。 ・檜山南部地域と、新幹線駅がある木古内町を結ぶ、唯一の公共交通路線で、生活や出張などのビジネス、観光に利用されている。 ・江差町や上ノ国町から江差高校、上ノ国高校等の教育機関への通学に利用されている。 ・江差町、上ノ国町の各町内の生活上の移動（買い物や病院等）にも利用されている。 ・上ノ国町や木古内町から湯ノ岱温泉への移動にも利用されている。 ・江差町では、函館江差線や檜山海岸線②の 2 つの広域路線と接続する。 ・江差町では、奥尻－江差航路にも接続する。				
広域生活交通路線 合計						57.6
総 計						270.6

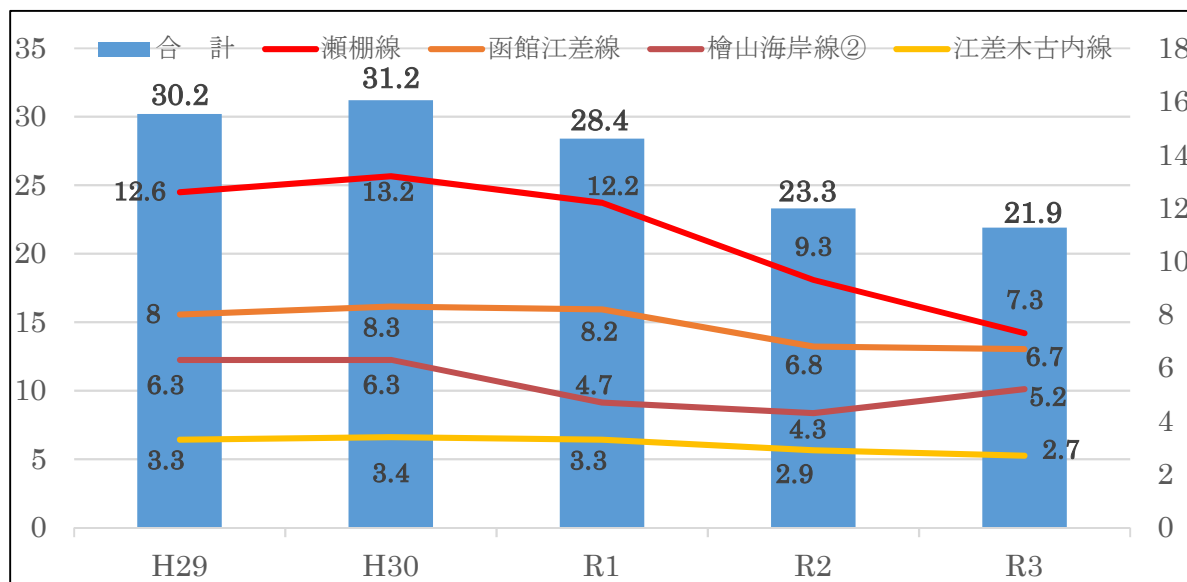
イ 路線の輸送人員

年間輸送人員は、人口減少や新型コロナウイルス感染症による観光客の減少等により、平成29年度には30万人であったが、令和3年度には約22万人まで減少している。

広域路線の年間輸送人員の推移

(合計：万人)

(各路線：万人)



【出典】函館バス㈱資料

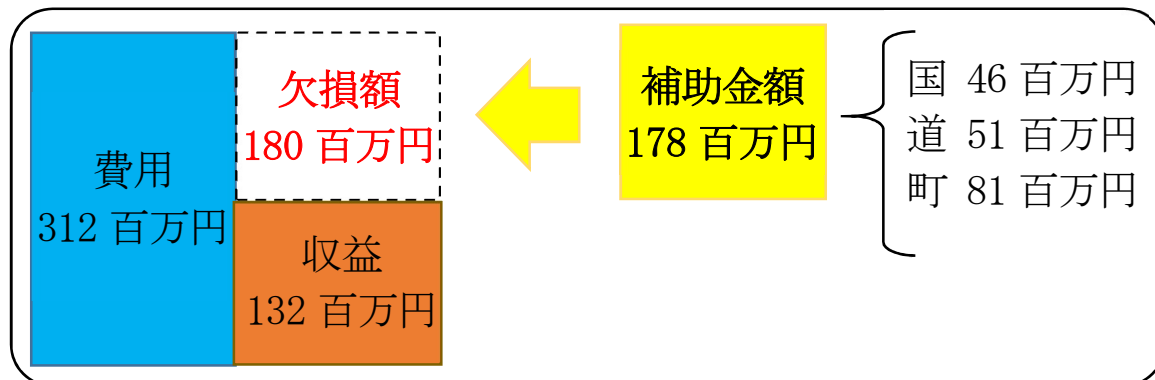
ウ 路線収支と行政支援額

○運行に必要な経常費用（人件費、燃料油脂費など）が、令和3年度には約3.1億円に対して、経常収入（運賃収入、広告収入など）は約1.3億円になっているなど、ここ5年間の経常収支比率は約42%～48%で推移しており、恒常的に欠損が発生している。

○路線を維持するため、この欠損に対し、国・道・町が交通事業者の補助金を交付しているところ。

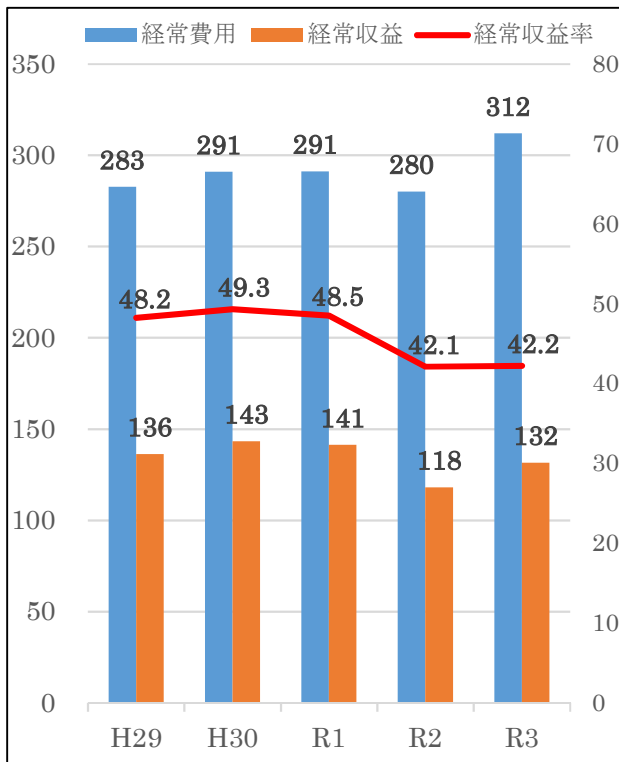
○近年、欠損が増加傾向にあり、補助金額は平成29年度の約1.4億円から、令和3年度の約1.8億円に増加している。

経常収支の状況（令和3年度）



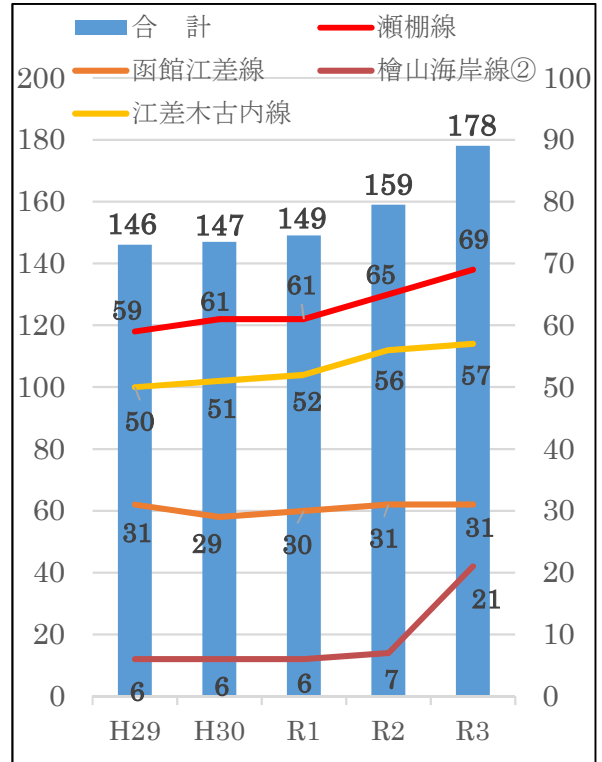
広域路線の経常収支の推移

(百万円) (%)



広域路線に対する補助金の推移

(各路線：百万円) (合計：百万円)



※令和3年度は、令和2年度以前より運行回数が増加したため、補助金額が増加 【出典】函館バス(株)資料

エ 補助要件の達成状況

広域4路線の補助要件（輸送量）の達成状況は下表のとおり。

広域路線の補助要件の達成状況（令和3年度実績）

補助区分 (補助率)	路線名	輸送量 (人/日)			備考
		補助要件 (A)	現状 (B)	要件比 (B-A)	
地域間幹線 系統 (国 1/2 道 1/2)	瀨棚線	15.0	23.8	+8.8	
	函館江差線		24.9	+9.9	
	檜山海岸線②		22.2	+7.2	
広域生活 交通路線 (道 1/2 町 1/2)	江差木古内線	10.0	8.2	▲1.8	新型コロナウイルス感染症の影響に対応した補助制度による補助対象

(3) タクシー

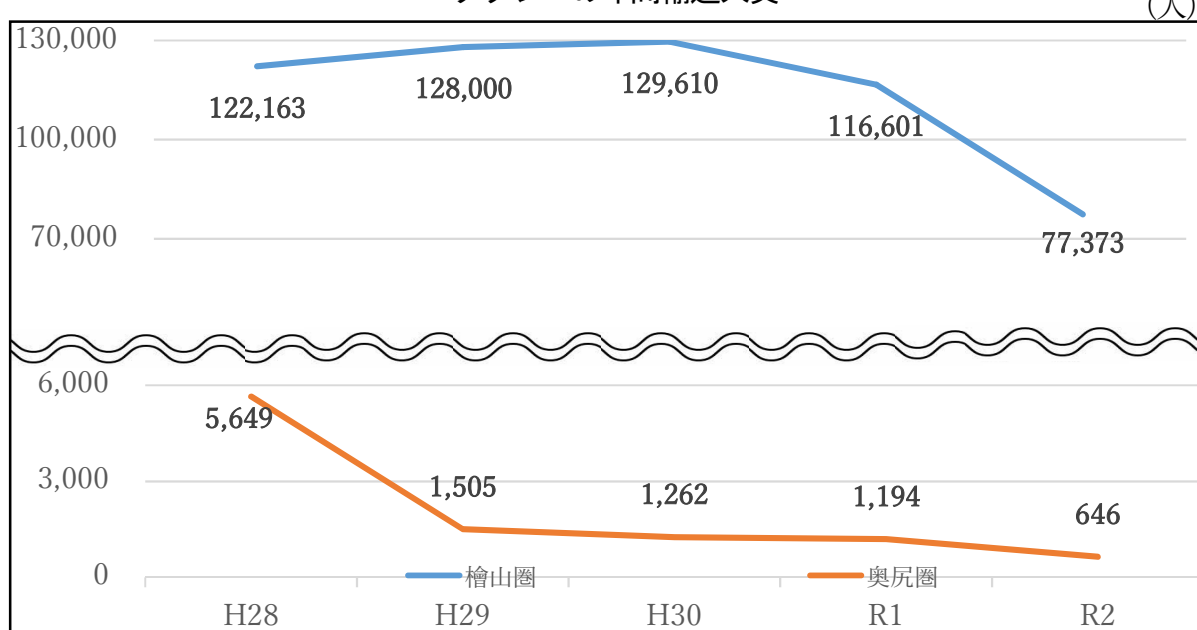
○檜山圏と奥尻圏の2つの営業区域があり、人口減少等に伴い、年間輸送人員はどちらの区域でも減少傾向にある。

○タクシーは、その利用により希望の時間に希望の場所に移動することができ、ラストワンマイル対策などの多様な移動ニーズに対応できる公共交通として利用されてきているが、近年、路線バスの利用者の減少等により、乗合タクシーへの転換が行われる場合、新たな交通事業の運行主体として役割を担う場面が増えている。

タクシーの営業区域

区域名	営業区域
檜山圏	江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、八雲町（旧熊石町のみ）、今金町、せたな町
奥尻圏	奥尻町

タクシーの年間輸送人員



【出典】北海道運輸局函館運輸支局(令和2年)

用語解説

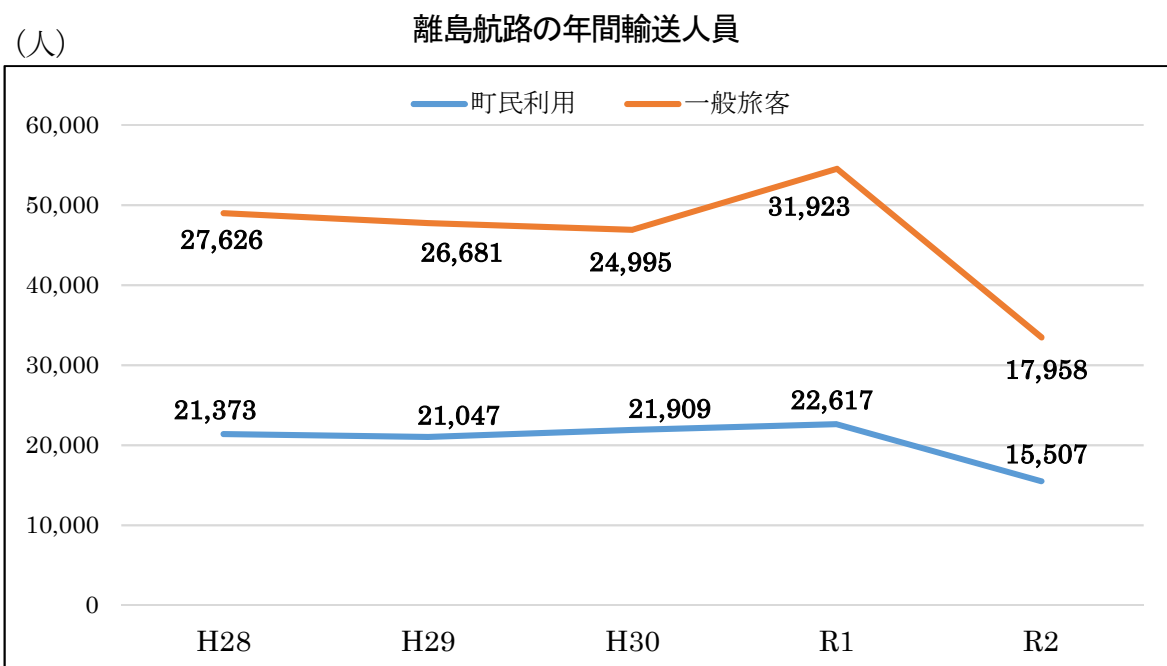
ラストワンマイル対策：バス停から最終目的地である自宅等への移動対策のこと。

乗合タクシー：不特定の乗客が相乗りするタクシーのこと。

タクシーの営業区域：道路運送法により、タクシー会社（営業所）毎に営業の許可を受けた区域のことで、乗車地または降車地のいずれか（若しくは両方）が営業区域でなければならない。

(4) 航路

○北海道本土と離島の奥尻町を結ぶ「江差－奥尻航路」が運航されており、地域住民や観光客の移動や生活物資等の輸送などに不可欠な交通手段となっているが、人口減少や新型コロナウイルス感染症による観光客の減少等により、航路利用者は減少傾向にある。



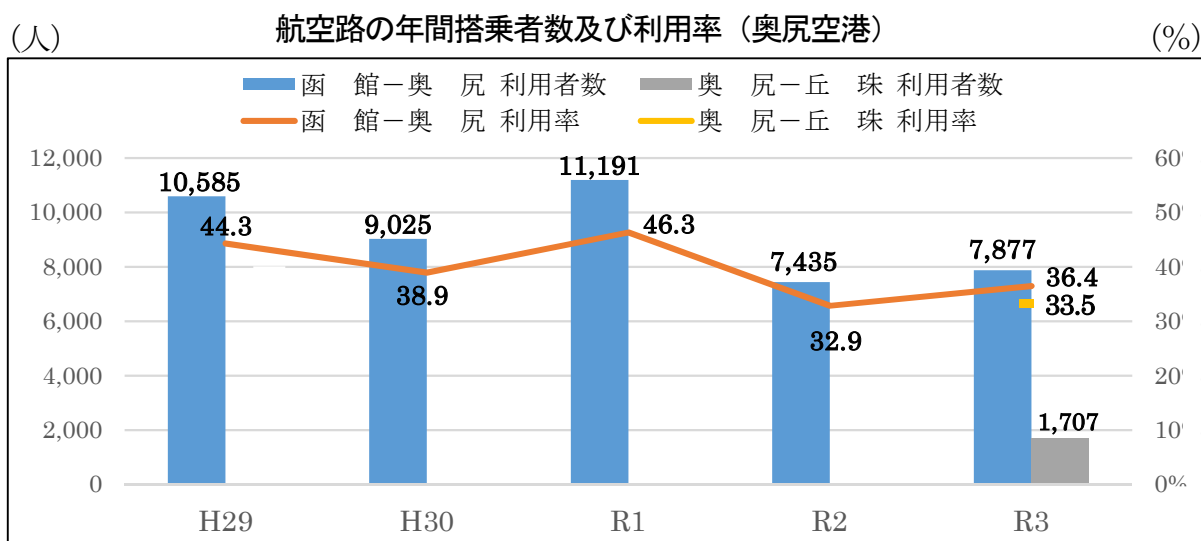
【出典】北海道離島航路確保対策協議会資料

○航路利用者の減少により、近年、航路の収支が厳しくなっているため、令和3年度（令和3年9月～令和4年10月）の運航分から国補助事業を活用し、補助を受けている。

○航路利用者の回復に向け、航路を利用する町民や物流事業者、観光客等のニーズに合わせたダイヤ調整、島内の2次交通に充実、観光振興等により、利用の増加や利便性の向上を図る必要がある。

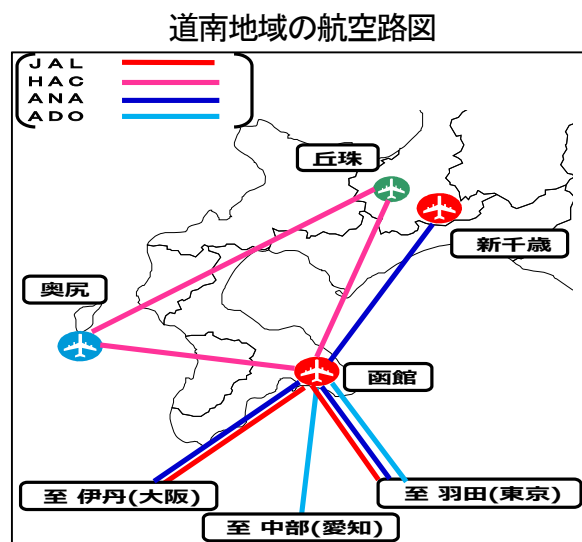
(5) 航空路

○北海道本土と離島の奥尻町を結ぶ航空路の「函館—奥尻線」及び「奥尻—丘珠線」が運航されており、乗降者数は年間約 10,000 人前後で推移している。



【出典】国土交通省「航空輸送統計年報」(R3は北海道エアシステム(株)資料の速報値)

- 「函館—奥尻線」は、平日に1往復運航。
島民が島民割引を活用して函館市へ通院・買い物等に利用されているほか、函館空港では、道内外への路線に接続していることから、道内外のビジネス客・観光客等に利用されている。
- 「奥尻—丘珠線」は、土日祝日に1往復運航。
札幌市からのビジネス客・観光客等に利用されている。
- さらなる利用促進を図るには、空港から島内を移動する二次交通の充実や、函館空港における接続便や「江差—奥尻航路」との接続も考慮したダイヤ調整など利便性の向上に取り組んでいく必要がある。
- 函館空港は道内2空港(新千歳・丘珠)と道外3空港(羽田・中部・伊丹)と結ばれており、これらの便との接続の改善、接続便に搭乗する乗客への観光PR等は道外からの誘客にも貢献すると考えられる。



(6) 北海道新幹線

- 平成 26 年 3 月に開業した北海道新幹線（新青森駅—新函館北斗駅）は、気象の影響を受けにくい青函トンネルを経由して、本州との間で運行されており、航路など他の公共交通より運休が少なく、安定的に運行されている。
- 道南地域には、木古内駅と新函館北斗駅の 2 つの新幹線駅があり、開業以降、道南地域と東北地方との交流が増加するなど開業効果が出ているところ。
- 令和 3 年に「北海道・北東北縄文遺跡群」が世界文化遺産に認定されたこともあり、今後観光客による利用増が見込まれるが、令和 12 年度の札幌開業が実現されれば、ビジネス客等も加わり、さらなる利用増が見込まれる。
- また、札幌開業と同時に、檜山地方と渡島地方の交通の結節点である八雲町・長万部町に新幹線駅も開業することから、管内公共交通と新幹線の結節がより強まることとなる。

主要バス路線と新幹線駅との位置関係



(7) 公共交通以外の輸送資源

○一部の医療機関が患者を輸送する無償バスを下表のとおり運行している。

○今後、住民の移動手段の確保にあたっては、これら無償バスを含めた輸送資源の利活用の議論も必要となってくると考えられる。

檜山地方を運行する患者輸送バス

区分	所在市町名	医療機関名	運行路線（経路）	
公的医療機関	上ノ国町	町立上ノ国診療所	神明⇔診療所	
			小砂子⇔診療所	
		町立石崎診療所	木ノ子⇔同町小砂子⇔診療所	
		町立上ノ国歯科診療所	町内一円⇔診療所	
		町立石崎歯科診療所	町内一円⇔診療所	
	厚沢部町	町立国保病院	館地区⇔鶉地区⇔病院	
	乙部町	町立国保病院	富岡・姫川方面⇔歯科医院⇔病院	
			滝瀬方面⇔歯科医院⇔病院	
			潮見・栄浜・花磯・豊浜方面⇔歯科医院⇔病院	
	せたな町	町立国保病院	北檜山区小倉山・丹羽・愛知⇔病院	
			北檜山区富里・二俣・小川⇔病院	
			北檜山区雲内・栄・共和⇔病院	
			北檜山区徳島・松岡・豊岡⇔病院	
			大成区長磯・太田⇔大成診療所⇔病院	
			瀬棚区東大里・西大里⇔瀬棚診療所・歯科診療所⇔病院	
			瀬棚診療所・歯科診療所⇔瀬棚区南川・共和⇔病院	
			瀬棚診療所⇔病院	
			同上大成診療所	大成区長磯・太田⇔診療所
				大成区長磯・太田⇔診療所⇔病院
同上瀬棚診療所・歯科診療所			瀬棚区東大里・西大里⇔診療所⇔病院	
			診療所⇔瀬棚区南川・共和⇔病院	
	診療所⇔病院			

区分	所在市町名	医療機関名	運行路線（経路）
民間医療機関	函館市	吉田眼科病院	上ノ国町⇔北斗市⇔病院
			せたな町瀬棚区・北檜山区⇔今金町⇔病院
			せたな町大成区⇔八雲町熊石⇔乙部町⇔病院
	函館市	江口眼科病院	せたな町大成区⇔八雲町熊石⇔乙部町⇔江差町⇔上ノ国町⇔厚沢部町⇔病院
			せたな町瀬棚区・北檜山区⇔今金町⇔長万部町⇔八雲町⇔森町⇔病院
		函館おおむら整形外科病院	八雲町熊石⇔乙部町⇔厚沢部町⇔病院
			上ノ国町⇔江差町⇔病院
北斗市	藤崎整形外科クリニック	道南一円⇔クリニック	

2 交通の結節点

- 「交通の結節点」は、路線バス同士などの乗継や、路線バスから北海道新幹線などの乗換の拠点であることから、公共交通の利用促進を図るうえで、重要な役割を担っている。
- 特に、檜山地方は、陸海空の公共交通が揃っていることから、多様な「交通の結節点」が所在しており、結節点における交通機関の結節の強化を図っていく必要がある。
- 「交通の結節点」は、単に交通機関の乗換や乗継としての機能だけではなく、街のランドマークとしての機能も持ち合わせているため、その観点からも待合所等の整備（待合所に集会所の機能を付加）を図っていく必要がある。

主な交通の結節点

凡例 BC：バスセンター、T：ターミナル、FT：フェリーターミナル

市町名	結節点	運行事業者名	接続する路線(系統)名
江差町	江差港 FT	函館バス(株)	函館江差線 (函館 BC⇔江差 T)
			檜山海岸線② (江差 T⇔八雲町熊石)
			江差木古内線 (木古内駅前⇔江差病院・江差高校)
			小砂子線 (江差 T⇔松前町原口)
			館線 (江差 T⇔厚沢部町東部館・富里)
			稲見線 (江差 T⇔厚沢部町稲見)
			木間内線 (江差 T⇔厚沢部町上木間内)
		ハートランドフェリー(株)	奥尻ー江差航路 (奥尻港⇔江差港)
	道立江差病院	函館バス(株)	函館江差線 (函館 BC⇔江差 T)
			檜山海岸線② (江差 T⇔八雲町熊石)
			江差木古内線 (木古内駅前⇔江差病院・江差高校)
			小砂子線 (江差 T⇔松前町原口)
			館線 (江差 T⇔厚沢部町東部館・富里)
			稲見線 (江差 T⇔厚沢部町稲見)
木間内線 (江差 T⇔厚沢部町上木間内)			
乙部町	乙部十字街バス停	函館バス(株) (有)おとべハイヤー	檜山海岸線② (江差 T⇔八雲町熊石) 予約バス「姫川鳥山以北線」(緑町⇔大岩)
奥尻町	奥尻港 FT	奥尻町有バス	青苗線 (BC⇔米岡新生団地)
			稲穂線 (BC⇔野名前)
			神威脇線 (BC⇔神威脇)
		(有)青苗ハイヤー	乗合タクシー (奥尻空港⇔役場・FT)
		ハートランドフェリー(株)	奥尻ー江差航路 (奥尻港⇔江差港)
	奥尻空港	奥尻町有バス (有)青苗ハイヤー (株)北海道エアシステム	神威脇線 (BC⇔神威脇)
			乗合タクシー (奥尻空港⇔役場・FT)
			函館ー奥尻線 (函館空港⇔奥尻空港)
丘珠ー奥尻線 (丘珠空港⇔奥尻空港) 【季節運航】			

市町名	結節点	運行事業者名	接続する路線(系統)名
今金町	今金バス停	函館バス(株)	瀬棚線 (上三本杉⇄長万部 T)
		(有)東ハイヤー	予約バス「ルンるん号」
			八東・白石地区 (八東・白石地区⇄今金町国保病院等)
			金原・豊田地区 (金原・豊田地区⇄今金町国保病院等)
			日進地区 (日進地区⇄今金町国保病院等)
			田代・稲穂地区 (田代・稲穂地区⇄今金町国保病院等)
		「まちなかルンるん号」(町内中心部)	
せたな町	北桧山バス停	函館バス(株)	快速瀬棚号 (函館 BC⇄上三本杉)
			瀬棚線 (上三本杉⇄長万部 T)
			久遠線 (北桧山⇄大成学校前)
		(有)東ハイヤー	予約バス「北桧山太櫓線」(北桧山⇄鵜泊団地)
	瀬棚市街バス停	函館バス(株)	瀬棚線 (上三本杉⇄長万部 T)
		(有)東ハイヤー	予約バス「瀬棚須築線」(やすらぎ館⇄須築)
		ハートランドフェリー(株)	奥尻-瀬棚航路【休止中】
	宮野バス停	函館バス(株)	久遠線 (北桧山⇄大成学校前)
(有)東ハイヤー		予約バス「桧山海岸線」(太田⇄八雲町熊石)	
北斗市	新函館北斗駅	北海道中央バス(株)・道南バス(株)・北都交通(株)・函館バス(株)	高速はこだて号 (札幌駅前 T⇄湯の川温泉東)
		北海道バス(株)	函館特急ニュースター号 (市電すすきの前⇄上湯川)
		函館バス(株)	函館江差線 (函館 BC⇄江差 T)
			大野線
			21 系統 (昭和営業所⇄新函館北斗駅)
			22 系統 (函館 BC⇄新函館北斗駅)
			25 系統 (函館 BC⇄新函館北斗駅)
			新函館北斗駅・上磯線
			28A・B 系統 (富川会館前⇄新函館北斗駅)
			大川線
			30・30A 系統 (函館 BC⇄新函館北斗駅)
			七飯線
		33 系統 (函館 BC⇄新函館北斗駅)	
		33B 系統 (新函館北斗駅→函館 BC)	
		33C 系統 (函館 BC→新函館北斗駅)	
36 系統 (函館 BC⇄新函館北斗駅)			
36A 系統 (西高校前・元町⇄新函館北斗駅)			
北海道観光バス(株)	A 系統 (新函館北斗駅⇄上湯川町)		

市町名	結節点	運行事業者名	接続する路線(系統)名	
北斗市	新函館北斗駅	北海道旅客鉄道(株)	北海道新幹線 (新青森⇔札幌駅)	
木古内町	木古内駅	函館バス(株)	江差木古内線 (木古内駅前⇔江差病院・江差高校)	
			函館松前線 (函館 BC⇔松前出張所)	
			木古内松前線 (木古内駅前⇔松前出張所)	
			小谷石線 (函館 BC⇔小谷石)	
		北海道旅客鉄道(株)	北海道新幹線 (新青森⇔新函館北斗)	
		道南いさりび鉄道(株)	道南いさりび鉄道線 (五稜郭駅⇔木古内駅)	
八雲町	八雲駅	函館バス(株)	函館長万部線 (函館 BC⇔長万部 T)	
			快速瀬棚号 (函館 BC⇔上三本杉)	
		(有)八雲ハイヤー	熊石・八雲間予約バス (熊石⇔八雲総合病院)	
		北海道旅客鉄道(株)	函館本線 (函館駅⇔旭川駅)	
		八雲総合病院	函館バス(株)	函館長万部線 (函館 BC⇔長万部 T)
				快速瀬棚号 (函館 BC⇔上三本杉)
		(有)八雲ハイヤー	熊石・八雲間予約バス (熊石⇔八雲総合病院)	
	熊石バス停	函館バス(株)	檜山海岸線② (江差 T⇔熊石)	
			(有)東ハイヤー	予約バス「檜山海岸線」 (太田⇔八雲町熊石)
		(有)八雲ハイヤー	熊石・八雲間予約バス (熊石⇔八雲総合病院)	
		函館バス(株)	函館長万部線 (函館 BC⇔長万部 T)	
		北海道旅客鉄道(株)	函館本線 (函館駅⇔旭川駅)	
長万部町	長万部駅	函館バス(株)	瀬棚線 (上三本杉⇔長万部 T)	
			函館長万部線 (函館 BC⇔長万部 T)	
		北海道旅客鉄道(株)	函館本線 (函館駅⇔旭川駅)	
			室蘭本線 (長万部駅⇔岩見沢駅)	
	国縫駅	函館バス(株)	瀬棚線 (上三本杉⇔長万部 T)	
			函館長万部線 (函館 BC⇔長万部 T)	
		北海道旅客鉄道(株)	函館本線 (函館駅⇔旭川駅)	

3 各町の公共交通施策の現状

(1) 各町における公共交通の現状

○各町は、町単独のバス路線への補助金の交付のほか、コミュニティバスや乗合タクシー、道路運送法第79条登録、スクールバス、無償バスなど、地域の輸送資源を総動員して、地域住民に必要な移動手段の提供を実施しているところ。

各町の公共交通の現状

	地域内 フィーダー 系 統	市町村 生活バ ス路 線	市町村 単補 助路 線	コミュ ニティ バス・ 乗合 タクシ ー	自家用自動車 有償運送		スクール バス	市運無 償バ ス	町行償 無バ ス
					交通空 白有運 送	福有 運送			
江差町	○		○	○	○	○	○		○
上ノ国町	○					○	○		○
厚沢部町			○		○	○	○		○
乙部町				○			○		○
奥尻町		○		○	○	○	○		
今金町	○		○	○			○		○
せたな町	○			○		○	○		○

用語解説

市町村生活バス路線：路線バスの廃止代替として、地域住民の生活に必要なと認められた路線のこと。

コミュニティバス：交通空白地や不便地域の解消のため、市町村が主体的に計画し、路線バス・乗合タクシー・自家用有償旅客運送のいずれかの運行方法のバスのこと。

自家用有償旅客運送：道路運送法第79条に基づく登録により、バス、タクシー事業が成り立たない地域における輸送手段の確保が必要な場合に、必要な安全上の措置をとった上で、市町村やNPO法人等が、自家用車（白ナンバー）を用いて旅客から実費の範囲内で対価を収受して運行する方法のこと。

市町運行無償バス：市町が地域住民などから対価を得ずに運行するバスのこと。

(2) 各町の地域公共交通計画の策定状況

○各町の「地域公共交通計画」(令和2年11月改正法施行前の地域公共交通活性化再生法に基づく「地域公共交通網形成計画」を含む)の策定状況であるが、全町が策定する予定となっている。

各町における地域公共交通計画策定期間

	地域公共交通計画策定期間(予定を含む)							
	～R2		R3	R4	R5	R6～	時期未定	策定しない
	改正地域公共交通活性化再生法							
	施行前	施行後						
江差町				○				
上ノ国町					○			
厚沢部町				○				
乙部町				○				
奥尻町					○			
今金町				○				
せたな町	○			○ (改定)				

※せたな町の現行計画(地域公共交通網形成計画)の計画期間はH30～R4であり、R4に改正地域公共交通活性化再生法に沿った内容での計画改定が行われる予定。

4 災害と公共交通

○令和2年に乙部町で発生した岩盤崩落に代表される土砂災害による路線バスの迂回運行や部分運休、台風や檜山地方独特の冬場の強風・波浪によるフェリー・航空機の欠航等の影響が発生している。

主な災害と公共交通への影響

被災年月	種類	発生箇所	災害概要	公共交通への影響
H30.4	土砂崩れ	道道5号 (木古内町)	道道5号の上ノ国町膳棚ー木古内町大川間で土砂崩れが発生し、同区間7.9kmで通行止め。	【路線バス】 部分運休。
R2.6	土砂崩れ	国道229号 (乙部町)	国道229号沿いの乙部町館浦で土砂崩れが発生し、同町鳥山ー館浦間の1.8kmで通行止め。	【路線バス】 17.4kmの迂回路を運行。復旧時期未定。
R2.11	土砂崩れ	道道 (木古内町ー上ノ国町)	道道5号沿いの上ノ国町湯ノ岱ー木古内町大川間で土砂崩れが発生し、同区間11.9kmで通行止め。	【路線バス】 部分運休。

○これらに対応するため、交通事業者や振興局、町のホームページや防災無線等を通じて、公共交通の不通等の情報を、速やかに利用者へ伝達する体制を整備している。

災害発生時の主な体制

